

■ 守恒 SOS ネットワーク

北九州市人権推進センターがお送りする「明日への伝言板」です。

2012 年 3 月現在、北九州市の高齢化率、
六十五歳以上の人が占める割合は 25.5%。
全国の政令指定都市の中でトップです。
それとともに認知症の人も増え続けています。

こくらみなみく もりつね
北九州市小倉南区の守恒地区では、まちづくり協議会を中心に 2012 年 9 月、
「守恒 SOS ネットワーク会議」が設立され、

はいかい
認知症などで徘徊するお年寄りの見守り活動を始めました。

地元の行事や防犯情報などを配信するネットワークを活用し、
高齢者や子どもなど、行方不明の人たちの SOS 情報をメールで発信します。
現在およそ九百人が登録しています。

「半年で 7 件もの SOS 情報が寄せられ、驚いています」と語るのは、
ささつきつぎお
ネットワーク会議会長の笹月二男さん。
笹月さんは夜中も専用の携帯を身に着け、
連絡がきたら、登録者全員に行方不明者の情報を送信します。
今までに寄せられた SOS 情報の中には、
自宅から一晩中歩き通し、朝方におよそ 25 キロ離れた町で見つかったお年寄りもありました。

笹月さんは言います。
「家族だけで探すのは限界があります。
メールを受けた地域の人たち一人一人が目となり足となって、
周囲や身近な場所を見てもらい、気にかけてもらうだけで大きな力になります」

そして、

「認知症は恥ずかしいという家族の意識を変え、
みんなで認知症について正しい理解を持とうという気持ちが生まれました」。

なかむら まり こ
守恒市民センターの中 村 真理子館長は言います。

「もしかしたらと気に掛け、敏感になることで、地域の安心にもつながっています。
自分たちの町をみんなで支えていこうという意識が強くなりました」

守恒SOSネットワーク会議では
認知症の勉強会を定期的で開催し、模擬訓練も行っています。
参加者の中には「自分もいずれ捜してもらう側になるだろうから」と語る人もいて、
みんな熱心に訓練に取り組んでいました。

現在、認知症と診断されている人は全国でおよそ 300 万人。
2025 年には 1.5 倍の 470 万人に増えると推計されています。
誰もが当事者になり得るという現実を受け止め、
地域の一人一人が知恵と力を出し合っていくことが大切ではないでしょうか。

では、また。